

(50)日本特許庁 (JP) (51)登録実用新案公報 (U) (52)登録実用新案番号
第3027123号

(53)発行日 平成8年(1996)7月30日 (54)登録日 平成8年(1996)5月15日

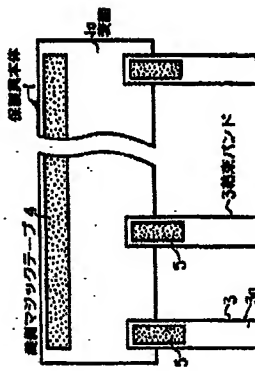
(55)発明者
F16L 57/00
A44B 16/00
A62C 33/00

特許請求の範囲 請求項の第5項 (全9項)

(56)出願番号 実願平8-153 (57)実用新案番号 391001189
(58)出願日 平成8年(1996)1月23日 (59)実用新案登録日 平成8年(1996)1月23日
(60)発明者 株式会社 東京消防庁消防設備1丁目21番17号 東京都 保本 幸
(61)特許代理人 株式会社 保本 幸
(62)特許代理人 株式会社 保本 幸
(63)特許代理人 株式会社 保本 幸
(64)特許代理人 株式会社 保本 幸

(54)【発明の名称】 ホース用簡易保護具

(57)【要約】
【課題】 ホースの損傷を防止でき、また重量で重い、簡便なホース用簡易保護具を提供することにある。
【解決手段】 消防ホースの一部の外周面に少なくとも1周巻き付けられる環を有するシート状の保護具本体1を有し、この保護具本体1に、この保護具本体1を筒状に結合するために保護具本体1の表面に縫製マジャックテープ(縫製縫合)4を設け、環面に縫製マジャックテープ6を設け、消防ホースの外周面に巻き付けることにより、消防ホースを保護することにある。



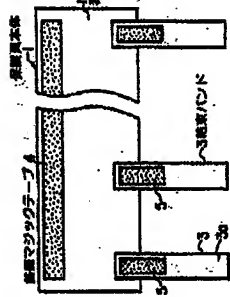
【発明の実施形態】
【図1】 ホースの一部の外周面に少なくとも1周巻き付けられる環を有するシート状の保護具本体と、この保護具本体に設けられたこの保護具本体を筒状に結合する結合手段とを具備したことを特徴とするホース用簡易保護具。
【図2】 前記結合手段は、前記保護具本体の端部内周面における環面に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。
【図3】 前記結合手段は、前記保護具本体の長手方向に環状を有する環状に設けられた縫製マジャックテープと、この縫製マジャックテープの端部に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。
【図4】 ホースの長手方向の両端部に保護具を有する環状に設けられたシートからなり、ホースの一部の外周面に巻き付けられることにより環状の巻き戻となる保護具本体と、この保護具本体に設けられ、保護具本体を筒状に結合する結合手段とを具備したことを特徴とする請求項20

【図5】 前記結合手段は、前記保護具本体の端部内周面における環面に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。
【図6】 前記結合手段は、前記保護具本体の長手方向に環状を有する環状に設けられた縫製マジャックテープと、この縫製マジャックテープの端部に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。

【図7】 前記結合手段は、前記保護具本体の端部内周面における環面に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。
【図8】 前記結合手段は、前記保護具本体の長手方向に環状を有する環状に設けられた縫製マジャックテープと、この縫製マジャックテープの端部に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項1記載のホース用簡易保護具。

【図1】

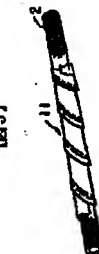
【図2】



【図3】



【図4】



Ref. (a)

実用3027123

(2)

*ホース用簡易保護具

【請求項5】 消防ホースは、前記保護具本体の端部内周面における環面に設けられ、前記筒状に結合される縫製マジャックテープであることを特徴とする請求項4記載のホース用簡易保護具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この装置の第1の実施形態を示す保護具の表面の平面図。
【図2】 同装置の保護具の表面の平面図。
【図3】 同装置の使用状態の平面図。
【図4】 この装置の第2の実施形態を示す保護具の表面の平面図。
【図5】 同装置の使用状態の平面図。
【符号の説明】
1...保護具本体
2...消防ホース
3...縫製マジャックテープ
4...縫製マジャックテープ
5...縫製マジャックテープ

10

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

この考案は、例えば消防ホースの外周部に巻き付けられることにより消防ホースを保護するホース用簡易保護具に関する。

【0002】

【従来の技術】

道路の近くで火災が発生し、消火活動に使用する消火栓等の水利が火災発生場所より道路を救んだ向かい側にある場合や、火災発生場所と消火栓等の水利が遠距離で複数本の消防ホースを接続して消火活動を行う場合には、複数本の消防ホースが何度も道路を横断することになる。

【0003】

このような場合、幹線道路においてはホースブリッジをセットし、このホースブリッジによって消防ホースの途中を覆って消防ホースを保護することにより、道路を自動車等が通行できるようにしている。

【0004】

このホース保護用ブリッジは、一般にゴム等の矩形形状のシートの中央部にホースを通すためのホース挿通路を有し、このホース挿通路を挟んで両側に互いに勾配面が外側に向くように配置したゴムまたは合成樹脂からなる左右二対のプロックとからなる。

【0005】

ホース保護用ブリッジを道路に敷設し、ホース挿通路にホースを通し、前記プロックの上面をタイヤが踏付けながら走行する車両の踏付け力からホースを保護するようにしている。また、特開平6-10708号公報に示すようなホースブリッジが知られている。

【0006】

【考案が解決しようとする課題】

ところで、前者のホース保護用ブリッジは、対象ホースの下に敷いて使用するものである。よって、実際に使用する時にはホースは、水が充填して重く、水

圧によって棒状に固くなったホースを1人が持ち上げ、もう1人が持ち上げたホースの下にホース保護用ブリッジを敷き込むという2人作業が必要であった。

【0007】

したがって、火災のように緊急時に、道路を横断している複数本の消防ホースを1人が持ち上げ、もう1人が持ち上げたホースの下にホース保護用ブリッジを敷き込むという作業は多くの労力を要し、実用に適さないという事情がある。

【0008】

また、後者のホースブリッジは、ホースを持ち上げることなく、ホースの上に接するだけでタイヤによって踏付けながら走行する車両の踏付け力からホースを保護することができ、1人で簡単にセットできるものの、ホースブリッジが大きく、重量もあるため、消防車に複数個のホースブリッジを搭載できないと共に、取扱いが困難である。

【0009】

したがって、前記道路等においては、前述のようなホースブリッジを使用しない場合が多いが、オートバイ等は消防ホースを乗り越えて走行するため、オートバイのミッションと後輪との間に掛け渡され、露出しているチェーンが消防ホースに接触して消防ホースに損傷を与え、水漏れ等の原因となっている。

【0010】

この考案は、前記事情に着目してなされたもので、その目的とするところは、ホースの外周部に簡単に巻き付けられることができ、その上部をオートバイ等が乗り越えて走行してもホースの損傷を防止でき、また重量で取扱いが簡単なホース用簡易保護具を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

この考案は、前述した目的を達成するために、請求項1は、ホースの一部の外周面に少なくとも1周巻き付けられる幅を有するシート状の保護具本体と、この保護具本体に設けられこの保護具本体を筒状に結合する結合手段とを具備したことを特徴とするホース用簡易保護具にある。

【0012】

【0018】

さらに、保護具本体1には結合手段としての構成面フラスナーであるマジックテープ（日本ベルクロKKの登録商標）使用している。すなわち、保護具本体1の表面1aにおける幅方向の他側縁部には長さ方向に亘って帯状に縫製マジックテープ4が固着されていると共に、複数本の結束バンド3の表面3aにおける基端側にも縫製マジックテープ5が固着されている。

【0019】

また、保護具本体1の裏面1bにおける幅方向の一側縁部、すなわち保護具本体1を丸めたとときに前記縫製マジックテープ4と対応する部分には長手方向に亘って帯状に縫製マジックテープ6が固着されていると共に、前記複数本の結束バンド3の表面3bにおける先端側にも縫製マジックテープ7が固着されている。なお、前記マジックテープは、縫製が無数のループに、縫製が前記ループに保止する無数のフックからなり、両者を圧着することにより、ループがフックに保止して結合されるフラスナーである。

【0020】

このように構成された消防ホース用簡易保護具によれば、火災発生場所と消火活動に使用する消火栓等の水利が道路を挟んだ向かい側にあり、消防ホース2が道路を横断するような場合には、その道路を横断する消防ホース2の途中に前述した消防ホース用簡易保護具を装着することにより、消防ホース2を車両から保護することができる。

【0021】

すなわち、消防ホース2に通水前または通水使用中に、消防ホース2の外周部に保護具本体1を略1周巻き付けることにより、表面1aの縫製マジックテープ4と裏面1bの縫製マジックテープ6とを圧着して両者を結合する。さらに、複数本の結束バンド3を保護具本体1の外周部に巻き付けて表面3aの縫製マジックテープ5と裏面3bの縫製マジックテープ7とを圧着して両者を結合する。

【0022】

このように消防ホース2の途中に消防ホース用簡易保護具を巻き付けることにより、図3に示すように消防ホース2の途中には保護具本体1によって全周が覆わ

請求項2は、請求項1の前記結合手段は、前記保護具本体の幅方向の両側縁における表裏面に設けられ、着脱可能に結合される構成面フラスナーであることを特徴とする。

【0013】

請求項3は、請求項1の前記結合手段は、前記保護具本体の長手方向に間隔を存して複数本設けられた結束バンドと、この結束バンドの表裏面に設けられ、着脱可能に結合される構成面フラスナーであることを特徴とする。

【0014】

請求項4は、ホースの長手方向の両端部に斜辺を有する略平行四辺形状のシートからなり、ホースの一部の外周面に巻き付けらることにより螺旋状の巻き姿となる保護具本体と、この保護具本体に設けられ、保護具本体を筒状に結合する結合手段とを具備したことを特徴とするホース用簡易保護具にある。

【0015】

請求項5は、請求項4の前記結合手段は、前記保護具本体の幅方向の両側縁における表裏面に設けられ、着脱可能に結合される構成面フラスナーであることを特徴とする。

【0016】

【実施例】

以下、この考案の実施の形態を図面に基づいて説明する。

図1～図3は第1の実施形態を示し、図1は消防ホース用簡易保護具の表面を示す平面図で、図2は同裏面を示す平面図、図3は同使用状態を示す斜視図である。図中1は保護具本体を示し、例えばアラミド繊維等の耐外傷性に優れた材料からなる補強布によって矩形状（例えば長さ3000mm、幅400mm、肉厚4mm）に形成されている。そして、消防ホース2の通水使用中においても、その一部における外周部を少なくとも1周巻き付けることができる幅に形成されている。

【0017】

保護具本体1の表面1aにおける幅方向の一側縁部には長さ方向に所定間隔を存して複数本の結束バンド3が保護具本体1の長手方向と直角方向に延長して設けられている。

【0033】

なお、前記各実施形態においては、消防ホース用簡易保護具は、道路の近くで火災が発生し、消火活動に使用する消火栓等の水利が火災発生場所より道路を挟んだ向かい側にある場合、複数本の消防ホースが道路を横断することから、この消防ホースを保護するために使用する場合について説明したが、道路や架橋等の工事現場、ビル等の建設現場等においては多数のエアホース、油圧ホース、電気コード等を使用するが、このようなホースやコード類を車両から保護するため、この考案の保護具を用いることもできる。

【0034】

【考案の効果】

以上説明したように、この考案によれば、ホースの外周部に簡単に巻き付けることができ、その上部をオートバイ等が乗り越えて走行してもホースの損傷を防止でき、また軽量で取扱いが簡単なホース用簡易保護具を提供できる。

【0035】

また、消防ホース用保護具として使用する場合、多数の保護具を必要とするが、前述したように軽量で、折り畳みも可能であり、運搬も容易で、保管スペースも狭く、実用的価値は大である。